ワークシート（１時間目）

医療①（指導者用）

（　　年　　組　　番　氏名　　　　　　　　　　　）

**１　社会保障について考えてみよう**

【ワーク１】これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるか、書いてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）※（ ）内は利用可能な社会保障制度  病気・ケガ（←医療保険、労災保険）、長生きによる収入減少（←年金保険）、自分が介護を必要とする状態になること（←介護保険）、失業（←雇用保険）、貧困（←生活保護） |

【ワーク２】予期せぬ困難を支えるのが社会保障制度です。社会保障制度のうち、社会保険には医療・年金・介護保険などがあります。もし、社会保険がなかったら私たちの生活はどうなるか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・医療や介護にかかる費用を全額自己負担しなければならないため、重い病気や要介護度になったときに必要な医療・介護が受けられなくなる。  ・何歳まで生きるか分からないなかで、働きながら高齢期の生活費を全額確実に用意しておかなければならなくなる。また、親が仕事を引退した場合には、親に多額の仕送りをしなければならなくなる。 |

→今日は公的医療保険について考えていきます。

**２　公的医療保険について考えてみよう**

（１）公的医療保険の仕組み

【ワーク３】窓口で保険証を提示した場合、あなたが支払う金額はいくらになるか、計算してみよう。

ケース１　突然高熱が出たあなた。近くの病院の内科でインフルエンザB型と診断され、薬も含めて治療代は全部で１万円になりました。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・３割負担だから、3,000円。国民皆保険制度で公的医療保険に入っているから、窓口での自己負担は３割になる。 |

ケース２　マラソン中に転倒し大腿骨骨折の大ケガ。手術をして１ヶ月入院。治療代は全部で150万円になりました。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・３割負担なので、原則として45万円を支払わなければならないが、高額な負担となった場合、負担額を頭打ちとし、残りを保険で支払う制度（高額療養費制度）がある。これを利用した場合、通常１ヶ月８万円程度で済む。 |

（２）医療機関を受診したときの医療費

【ワーク４】医療機関でもらう領収証や診療明細書から分かることを探ってみよう。

①　副教材p.11～12を見て、医療機関にかかって窓口でお金を払った時に受け取る領収証や診療明細書から何が分かるか、確認してみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・診療内容と費用。 |

②　副教材p.11～12に載っている領収証や診療明細書から実際の医療費がいくらかかっているか、確認してみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・実際の医療費は２万1890円。領収証や診療明細書では、１点10円になっている。 |

（３）国民皆保険制度の必要性

【ワーク５】副教材p.13の年齢階級別１人当たり医療費のグラフから読み取れることを答えよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・高齢になるにつれて医療費が増大していく傾向にある。  ・幼い頃もけっこう医療費はかかっている。 |

【ワーク６】国民皆保険制度は必要か、それはなぜか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・必要。国民皆保険制度であれば、収入や個人が抱えるリスクによらず、保険料をきちんと負担していれば、いつでも、誰でも、医療が受けられるから。 |

【本日の振り返り】今日の授業で学んだことを書いてみよう。

|  |
| --- |
|  |

ワークシート（２時間目）

（　　年　　組　　番　氏名　　　　　　　　　　　）

**２　公的医療保険について考えてみよう**

（４）日本の公的医療保険の課題

【ワーク７】副教材p.15「医療費の動向」から分かることとその原因を、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・医療費が年々増加している。高齢になるにつれ、一人当たりの医療費は増大する傾向にあることから、この変化は少子高齢化の影響によるものと考えられる。 |

（５）日本の公的医療保険の課題に対して私たちができること

【ワーク８】私たちができる医療資源（病院、医師、薬等）の効率的な使い方について、考えてみよう。

○　限りある医療資源を効率的に使うため、個人として何ができるか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・健康に気をつける。  ・かかりつけ医に相談する。  ・過剰な病院受診（ハシゴ受診）を控える。 |

○　グループに分かれて、考えたことを発表しよう。

発表を通じて感じたことや分かったことについて、メモしよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・他の人から発言のあった、➀ジェネリック医薬品を活用することや➁市販薬で代替できる医薬品（湿布薬、うがい薬、保湿剤等）について、市販薬を購入することを私も実践したい。  ・同じ病気で必要以上に複数の病院に行くハシゴ受診は問題だが、場合によっては主治医以外の医師による助言（セカンドオピニオン）も必要ではないかという意見があった。この場合でも、何度も行う必要のない検査については、主治医が行った検査結果を次の病院に持っていくなど、工夫できることはあると思った。  ・窓口負担以外の分は、保険料や税金でまかなわれているので、多くの支え手によって担われていることを意識して、持続可能な制度にする必要があると思った。 |

（６）公的医療保険を維持するために社会としてできること

【ワーク９】公的医療保険を維持するために政府や地方自治体としてできることを、考えてみよう。

○　公的医療保険を維持するために、個人の努力だけではなく、政府や地方自治体としては何ができるか、考えてみよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・保険料や自己負担割合を見直す。  ・市販薬で代替できる薬については、保険適用を見直す。  ・医療費の伸びを、経済の伸び率などの一定の範囲に収めるよう調整する。 |

○　グループに分かれて、考えたことを発表しよう。

発表を通じて感じたことや分かったことについて、メモしよう。

|  |
| --- |
| （回答例）  ・医療は、一旦、病気や要介護となれば、必ず必要となるものであり、伸びを機械的に調整すると、限界を超えた利用者負担や国民の健康水準の低下を招くのではないかという意見があった。  ・能力に応じた負担が重要であり、高齢になっても働いている人が増えていることや、収入だけではなく金融資産にも着目することで、持続可能性が高められるのではないかという意見があった。  ・少子高齢化が進む中で、子どもや子育て施策にも着目して、全ての世代が安心できる社会保障制度を考えていくべきとの意見があった。自分達も当事者としての意識をもって、議論に参加していきたい。 |

【この２時間の授業の振り返り】この２時間の授業で学んだことを書いてみよう。

|  |
| --- |
|  |